宇都宮ジャズのまちづくりからみる ジャズの可能性

Potential of Jazz ーA case study of Community Involvement by Jazz in Utsunomiya City

00-2152-2　真下慶太
指導教官　坂野達郎

１．研究の背景と目的

1-1　背景、目的

ジャズは戦前から日本に流入してきていたが、戦時中は敵性音楽となるものの、戦後の進駐軍の滞在により普及し、'60～'70年代のジャズ喫茶ブームをピークに衰退していった。近年、カフェやレストランでBGMとして使用されることが多くなったり、ジャズの生演奏を聞かせる店が増えたりしたり、ジャズは時代により位置付けは変わりながらも見直されている。

一方、まちづくりにおいて個性豊かな地域の特性を生かすことが求められ、文化的ソフトとして、ジャズを用いたまちづくり実施されるようになっている。その主な手段はジャズフェスティバルの開催であり、単発的に一つの大会場で行うものや、短期間、街を会場と見立て、街角やライブハウスなどで同時多発的に行うものなど様々である。

まちづくりにジャズが用いられる要因の一つには、近年におけるジャズの見直しの流れがあると思われるが、ジャズという音楽がまちづくりに用いられることで、双方の分野に影響を与え合うことは十分予想される。そこで本研究では、ジャズのまちづくりの実態把握とそれに関連する人々の意識から、ジャズの持つ可能性・現代性を明らかにすることを目的とする。

1-2　対象地、構成

本研究の対象地は、栃木県宇都宮市とする。対象地の選定理由は、他地域のジャズのまちづくりは年に１～２回の単発的なジャズイベントしか行わないところが多いのに対して、同市は年間を通して恒常的にイベントや街角ライブを開催しており、運営者の意識、同市およびその周辺の地域住民のジャズに対する意識が捉えやすいと考えたためである。

本論の構成は、宇都宮ジャズのまちづくりの概要を２章で把握し、３章でジャズのまちづくりに関わる人々の意識について、４章で街角ジャズライブ観覧者のジャズに対する意識を把握し、第５章で総合的な考察を行う。

２．宇都宮ジャズのまちづくりの概要

宇都宮市は2001年よりジャズのまちづくりを進めている。基本方針は、「音楽に親しめる場所がたくさんあり、店だけでなく、街角からも生の音楽があふれてくる街」としている。また、ジャズをノンジャンルの音楽と位置付け、ポピュラー音楽すべてをジャズと捉えている。運営は「うつのみやジャズのまち委員会」と「宇都宮ジャズ協会」を中心に行われている。うつのみやジャズのまち委員会は、2001年に同市と音楽団体などの各民間団体による官民の共同体として発足した【表1】。宇都宮ジャズ協会は、2002年に発足し、市内の音楽に関係した店舗が中心となった民間人のみの団体である。

【表 1】 うつのみやジャズのまち委員会の構成

宇都宮市	公益団体	音楽団体	その他
教育委員会 文化課	宇都宮商工会議所 宇都宮観光ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝ協会 宇都宮青年会議所 宇都宮まちづくり推進機構	宇都宮軽音楽連盟 栃木県ﾋﾞｯｸﾞﾊﾞﾝﾄﾞ連盟	ﾅﾍﾞｻﾀﾞﾌｧﾝｸﾗﾌﾞ ｵﾘｵﾝｼﾞｬｽﾞ実行委員会 宇都宮市商店街連盟 栃木よみうり　等

主な事業内容は、街角ライブの開催、音楽活動の発表の場の創出、ジャズセミナーの開講、渡辺貞夫氏の顕彰、ジャズの街の情報の提供、市内の様々なイベントにジャズを組み込むことである。【表 2】

【表 2】 主な事業内容

事業コンセプト	内容	目的	事業数
鑑賞･交流型事業	まちかどライブ	音楽のあふれる街の創出 市民のジャズへの意識高揚	3
参加型事業	市民芸術祭･軽音楽祭	音楽の発表の場の創出	1
育成型･ 教育普及型事業	ジャズセミナー	市民演奏者の育成	3
顕彰事業	渡辺貞夫氏の顕彰		1
普及啓発事業	ｼﾞｬｽﾞﾏｯﾌﾟ、ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ		ー
協賛･後援事業	事業協力 (まちかどライブ)	音楽のあふれる街の創出 演奏者の発表機会の創出	15

３．ジャズのまちづくりに関わる人々の意識

3-1　目的と調査概要

ジャズのまちづくりに関わる人々へのヒアリング調査により、各団体および演奏者のジャズのまちづくりへの意識を把握することを目的とする。調査は2003年12月から翌１月にかけて実施した。調査対象・調査項目は【表 3，4】に示した通りである。

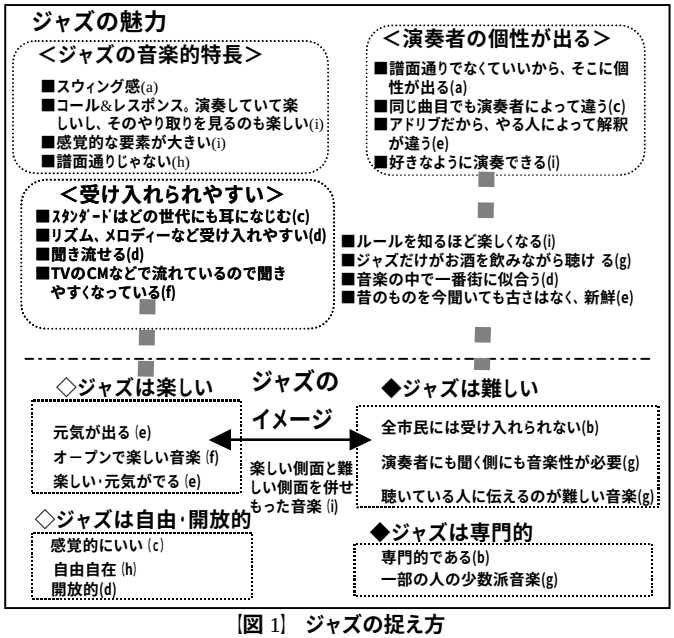
【表 3】 ヒアリング項目

【ジャズについて】
ジャズとの関わり、ジャズの捉え方
【ジャズのまちづくりについて】
参加の目的、変化したこと、現状の評価 問題点、今後の課題、理想像

3-2　調査結果

(1)ジャズの捉え方【図１】

ジャズの魅力として、ジャズの音楽的特徴から「演奏者の個



【図 1】 ジャズの捉え方

【表4】 ジャズのまちづくりへの参加目的と評価

ヒアリング対象者:所属	ジャズのまちづくりへの参加目的		評価 [良い◎･まあ良い○･どちらともいえない△･悪い×]	
a: 宇都宮軽音楽連盟	ジャズの活性化	アマチュアジャズプレイヤーとして、練習や発表の場の創出が参加目的	△	今は基礎作りの段階
b: 宇都宮商工会議所	街の活性化	ジャズのまちづくり＝集客のソフト 中心市街地活性化の一策として期待	◎	音楽は街に華やかさを加え、来街者に街の楽しさを与える
c: 宇都宮観光コンベンション協会	街の活性化	都市観光 (ジャズ＝観光資源) による交流人口増加と経済波及効果、地域活性化を期待	◎	祭りやイベントに積極的に街角ジャズが取り入れられ、ジャズの街のイメージが浸透しつつある
d: オリオンジャズ実行委員会	街の活性化	街角ジャズによる商店街の活性化、渡辺貞夫氏の顕彰	◎	中心部での街角ジャズライブの増加は、非常にいい
e: ナベサダファンクラブ ジャズクラブ	ジャズの活性化	渡辺貞夫氏の顕彰、宇都宮におけるジャズの活性化 ジャズを好きな人の増加を期待	○	徐々にジャズが市民に浸透しつつあるが、まだジャズを好きな人は少ない
f: レストラン	街の活性化	街や音楽の活性化による店の利益の増加を期待	×	売上にほとんど影響なし
g: 楽器店	ジャズの活性化	宇都宮で、ジャズに限らず音楽の演奏者の増加を期待	×	ジャズ＝集客ソフトが成立するとは思えない
h: ジャズクラブ	ジャズの活性化	宇都宮におけるジャズの活性化 若手のジャズ演奏者、ジャズを好きな人の増加を期待	○	街角ジャズライブの増加＝興味を持つ人の増加 しかし、当店への来店数は増えていない
i: アマチュアジャズプレーヤー		―	◎	演奏機会が増え、とてもありがたい

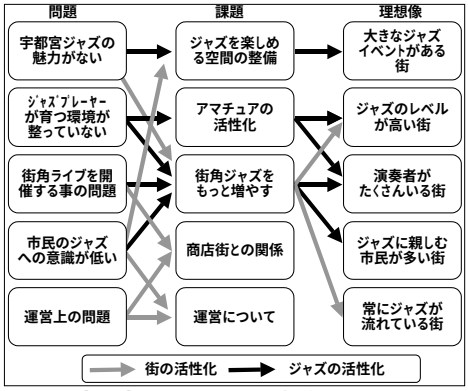
性が出ること」が多く挙げられている。また、「受け入れられやすい」という意見も得られた。また、ジャズのイメージとしては「楽しい」「開放的」と「難しい」「専門的」といった相反する 2 つのイメージが持たれていた。

(2)ジャズのまちづくりへの参加目的と評価【表４】

参加目的としては、「街の活性化」と、ジャズ演奏者及び愛好家を増やすことによる「ジャズの活性化」の 2 つに大別された。ジャズのまちづくりを行うことで来街者の増加やジャズに関係した店舗への来店数など商業的な街の活性化を示す意見は得られなかった。しかし、「街角ライブが行われているところには賑わいが生まれること」や、「新たにジャズに興味を持つ人の増加」「演奏機会が増える」などが実態として認識されている。ジャズのまちづくりへの評価では、全体的に良い評価をしており、その評価の軸となっているものは街角ライブが多い。その理由として、「街に華やかさを与える」や「ジャズに興味を持つ人が増える」「演奏機会が増える」など、街角ライブによる効果は大いに期待されている。

(3)問題・課題・理想像の関係

問題点、課題、理想像については、得られた意見を分類しまとめた上で、項目間の関係を簡単に図式化した【図 2】。これを見ると、現状での問題が「街角ジャズをもっと増やす」という課題に関連づけられていた。また、ジャズの活性化と街の活性化を目的とする双方の主体が「街角ジャズを増やすこと」「空間整備」を課題と考える意識が向けられていることが分かる。これらより、各々が描くジャズの街の理想像を実現するために、街角ジャズを増やすことは街の活性化にもジャズの活性化にも重要と考えられていることが分かる。



【図 2】 問題･課題･理想像の関係

４．街角ジャズライブ観覧者のジャズに対する意識

4-1　目的と調査概要

街角ジャズライブ観覧者へのアンケート調査により、観覧者の街角ライブに対する意識、ジャズに対する意識などの把握を行うことを目的とする。調査項目と概要は【表 5，6】に示す。

【表 5】 アンケート調査項目

【街角ジャズライブについて】
認知度･回数･評価･再来希望
認知度･評価･ジャズの定義について
【ジャズについて】
イメージ･普段聴くか･聴く場所･好きなところ･ライブ後の意識の変化

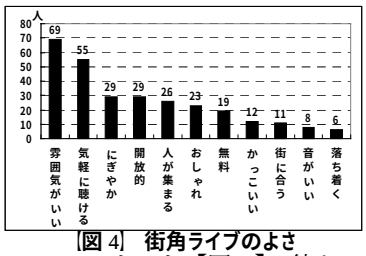
【表 6】 アンケート調査概要

日時	2003 年 11 月 21 日(金) 17～21 時
	300 人(推定)
配布数	114 配布･回収、有効数 112
イベント名	シンボルロード･ライトアップ
プログラム	イルミネーション点灯式、ジャズライブ、屋台(軽食、ワイン等)

4-2　アンケート結果分析

(1)街角ジャズライブについて

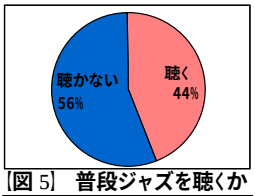
街角ジャズライブに対しては全体的に良い評価がされており、その評価の理由は「雰囲気がいい」がもっとも多く、さらに「にぎやか」「人が集まる」など街の賑わいに関連する項目が上位に見られた。【図 4】



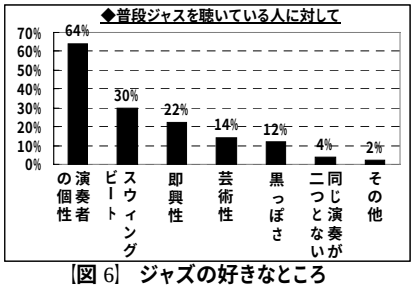
【図 4】 街角ライブのよさ

(2)ジャズについて

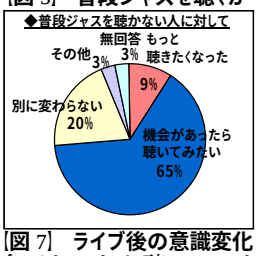
普段ジャズを聴いている人は 44%であった【図 5】。彼らのジャズの好きなところは、「演奏者の個性」がもっとも多く、3 人に 2 人が選んでいる。【図 6】



【図 5】 普段ジャズを聴くか



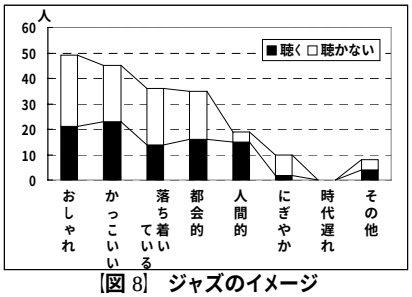
【図 6】 ジャズの好きなところ



【図 7】 ライブ後の意識変化

普段ジャズを聴かない人(56%)のライブ後のジャズに対する意識の変化は、「もっと聴きたくなった」「機会があったら聴いてみたい」を合計して 74%となった。以上より、普段からジャズを聴いていない人がライブを通して少なからずジャズに興味を持つようになったといえる。【図 7】

また、ジャズは「おしゃれ」「かっこいい」というイメージをもつ人が多いことが分かった。「人間的」というイメージが普段ジャズを聴かない人にはほとんど見られない。【図 8】



【図 8】 ジャズのイメージ

５．総合的考察

宇都宮ジャズのまちづくりは、街の活性化とジャズの活性化の両方が目的とされており、その両方に有効な手段として街角ライブが位置付けられていた。街の活性化を見ると、街角ジャズは街に華やかさを与え、雰囲気を演出すると認識されている。

街角ライブの観覧者の意識からは、多くの人がジャズに対し、「おしゃれ」や「かっこいい」というイメージを抱く。一方で、普段ジャズを聴く人は、ジャズの成立過程から生まれた特徴である「人間的」というイメージを持つ人が多く見られた。彼らは、ジャズの好きなところとして「演奏者の個性」を挙げており、ジャズには人間的な要素が一つの魅力として内在し、普段聴かない人にとってそれは感じにくいものなのであろう。運営者側の意識からも「演奏者の個性がでる」、「受け入れられやすい」ことがジャズの魅力として捉えられ、「楽しい」と「難しい」という相反するイメージがあることが分かった。以上から、ジャズには相反するジャズのイメージが共存、つまり二面性を持っているということが言えよう。

街角ライブはジャズへ興味を促すといった意味では有効であるが、この二面性がジャズへの興味が深まることを阻害することもあると推測でき、街角ライブの開催のみでは、結果的にジャズの活性化につながりにくくなると考える。しかし、宇都宮では様々なジャズ関連事業が行われており、このことが相反する二面性を歩み寄らせることになるのではないだろうか。

６．結論

・宇都宮ジャズのまちづくり運営者の意識では、ジャズのまちづくりは街の活性化とジャズの活性化の両方が目的とされており、街角ライブは双方に有効な手段として考えられている。

・ジャズのまちづくり運営者と街角ライブ観覧者のジャズに対する意識には、「楽しい」「難しい」といったような相反する二面性が持たれている。

・街角ライブによって市民のジャズへの興味は促されるが、ジャズ喫茶等への来店者数には変化はない。